

### 第9章 1. 開国と幕末の動乱 b. 開港とその影響

開港＝世界経済の体系に日本を直接結合する(←[1 自由]貿易[2 協定]関税)

1859年、横浜(神奈川)・長崎・箱館の3港ではじまった貿易は大はばな[3 輸出超過]となり、それをうけ[4 物価が上昇]、国内産業に大きな変化が生じた。輸出品の中心となった[5 生糸]の生産は拡大したが、安価な[6 綿織物]の大量輸入は[7 綿作]や[8 綿織物]業を強く圧迫した。

これに対し、幕府は[9 貿易統制]をはかるべく1860年[10 五品江戸廻送]令をだしたが、[11 在郷商人]や[12 商取引の自由]を主張する列国の反対で効果はあがらなかった。

他方、日本と外国との[13 金銀比価]が違ったことから多量の[14 金貨]が海外に流出、幕府は金貨の品質を大はばに引き下げる[15 改鑄]をおこなったが、このことは[16 物価上昇]に拍車をかけた。こうして、貿易に対する反感は、激しい[17 攘夷]運動がおこる一因となった。

- ①[18 生糸]、[19 茶]、蚕卵紙、海産物の[20 輸出]急増→大幅な値上がり  
→[21 製糸]業の急速な発展→[22 マニファクチュア]化への急速な展開  
→国内物価急騰
- ②毛織物、[23 綿織物]、石油などの[24 輸入]急増  
→国内の[25 綿花]栽培や[26 綿織物]業、菜種生産などへの打撃  
→1861～ 一時、日本は綿花輸出国に?  
**日本でつくるより輸入した方がコストが安いものがうれ、日本でつくるものは売れなくなる。**
- ③国内[27 商品流通網]の混乱  
→江戸・大坂中心の流通から[28 横浜]を中心とした[29 貿易]依存型に  
→幕府…[30 五品江戸廻送]令(1860)をだし貿易統制をはかる  
→外国商人や地方商人の反対で挫折。
- ④[31 金銀比価]の違い 金:銀=1:15(世界)、1:5(日本)  
→[32 金]の大量流出→やむなく[33 貨幣改鑄]を実施 **貨幣に含まれる金の量を1/3に減らす**
- ⑤経済の大混乱→物価急上昇→消費者([34 下級武士]や町人)や綿作農家などを直撃  
→外国との貿易に反対する勢力の増加→[35 尊王攘夷]運動の激化に

### c. 政局の転換

通商条約の締結問題は、攘夷派の影響を受けた[36 孝明]天皇が開国に否定的であったこともあって、[37 将軍継嗣]問題とむすび、幕府内の対立を強めた。有力藩主である[38 松平慶永](越前)・[39 島津斉彬](薩摩)らは、[40 賢明]な人物を求めて[41 一橋慶喜](齐昭の子)を推し([42 一橋]派)、伝統を重視する譜代大名らは[43 血統の近い]幼年の徳川慶福(紀州藩主)を推した([44 南紀]派)。こうしたなか、1858(安政5)年、南紀派の指導者[45 井伊直弼](彦根藩)が[46 大老]に就任し、[47 勅許]のないまま通商条約の調印を強行、さらに[48 徳川慶福](家茂)

を将軍の跡継ぎに決定した。

条約の違勅調印は[49 孝明天皇]の怒りを招き、[50 一橋]派の大名や[51 尊王攘夷]となえる志士たちから強い反発がおこった。これにたいし、井伊は強硬な態度で対応、一橋派の[52 徳川齐昭]・一橋慶喜・松平慶永は隠居・謹慎を命じられ、[53 橋本左内](越前藩士)や吉田松陰(長州藩士)らを死刑とした。([54 安政の大獄])。こうしたきびしい弾圧に憤激した水戸脱藩の志士たちは、1860(万延元)年、[55 井伊]を江戸城外で暗殺した([56 桜田門外]の変)。

A…保守派(幕府独裁派)…これまでの幕府中心の政治を維持、将軍の血統・伝統を重視する保守派  
→親藩や外様大名など有力大名の介入を嫌う 譜代大名ら

B…改革派(雄藩連合派・[57 公武合体]派)…有力諸藩が協力し、[58 挙国一致]政権を樹立する  
→[59 天皇]を中心とし幕府と朝廷の協調(公武合体論)をすすめる。  
有力親藩大名・有力外様大名・幕僚改革派

C…尊王攘夷派…[60 天皇(朝廷)]中心の政治実現、天皇の嫌う[61 開国]に反対  
→京都の[62 公家]らに接近、反幕的・狂信的な運動を展開  
各藩の下級武士、豪農・豪商家

- ①ペリー来航→老中阿部正弘…朝廷に報告、諸藩に対策の協議を求める→和親条約締結  
↓
- ②[63 条約勅許]問題、[64 将軍継嗣]問題をめぐり、幕府部内での対立激化  
・南紀派…血統を重視、[65 徳川慶福](紀州藩)をおす=A 保守派  
・一橋派…政治的力量を重視、[66 一橋慶喜](徳川齐昭の子)をおす=B 雄藩連合派  
→朝廷の推薦による  
↓  
雄藩連合派や尊王攘夷派の志士たちが、[67 朝廷]・公家との結びつきを求め、京都で活動  
なお、当時の[68 孝明]天皇は開国を嫌う
- ③1858年 南紀派の[69 井伊直弼](彦根藩)、大老に就任  
・無勅許で[70 通商条約]を締結、将軍の継嗣を徳川慶福([71 徳川家茂])に決定  
・幕政改革派の大名や尊王攘夷派の志士を弾圧([72 安政の大獄])  
→徳川齐昭・松平慶永・一橋慶喜らを処罰、橋本左内・[73 吉田松陰]らを処刑  
↓
- ④朝廷、幕政改革派や[74 尊王攘夷]派などの反発  
→1860年、尊王攘夷派の水戸浪士、[75 井伊直弼]を暗殺([76 桜田門外]の変)→保守派壊滅
- ⑤老中安藤信正による[77 公武合体]運動=78 朝廷(公)と幕府(武)の融和をはかる 運動  
→孝明天皇の妹[79 和宮]と将軍家茂の結婚をはかる  
→1862年、坂下門外の変=和宮降嫁に反対した尊王攘夷派が[80 安藤信正]を襲撃した事件→失脚